

10月27日(土)は「十三夜」、旧暦の9月13日の夜に「月」を鑑賞する日に当たります。

誰もがよく知っている「十五夜」(旧暦の8月15日)は中国から伝わった習慣ですが、「十三夜」は日本独自の風習なのです。

この頃に収穫される作物にちなんで「栗名月」とか「豆名月」とも呼ばれているようですが、十五夜を眺めて十三夜を見ないのは「片月見」といい、忌みきらわれていたそうです。

ところで、“十三夜の月”ですので、当然まん丸の満月ではなく、少し欠けた月ということになりますが、何故か半端なものを愛でるところが“日本人の美意識の現れ”、なのでしょいか…

さて、「十五夜」はあまりすっきりしない夜空が多いと言われていますが、その一方で「十三夜」は雲が出ないことが多いようで、「十三夜に曇り無し」とも言われています。でも… 夜空を見上げると… 雲がかかっていた…

今回は、10月15日にも取り上げた「リンドウ」の“第二弾”です。

秋も深まりつつあるこの時期、岩湧山や大和葛城山などの山頂付近の草原では、秋の空の如く真っ青な「リンドウ」の花が“旬”を迎えています！

咲いている場所によって、花の色(の濃さ)も異なるようです。

【参考】 [10/15 リンドウ](#)



<http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/121015rindou.pdf>





















